



反差別国際運動 (IMADR)

〒106-0032 東京都港区六本木 3-5-11

Tel: 03-3586-7447 Fax: 03-3586-7462

Email: imadris@imadr.org Website: www.imadr.org

ニマルカ・フェルナンド (IMADR 理事長、在スリランカ) からのお礼状

親愛なる日本の皆さまへ

津波から1年が経ち、大きな感謝の気持ちと、多くの人びとが「私たちと共にある」という感覚をもって、皆さまのことを思い出しています。スリランカにとって過去最大の災害に直面したとき、皆さまが私の傍で支えて下さったことは、いつまでも私の心に残り続けることでしょう。私は、2005年1月に日本を訪問し、深い悲しみを共有する機会があったので、誰よりもそれを感じることができました。皆さまが近くにいることを実感することができたのです。

私たちは、IMADRとして、重大な局面において人びとがどのように連帯できるのか、自分たち自身や自分たちが関わるコミュニティに対して、これまでも常に示してきました。どのようにしてお互いの手を取り合うのか、どのようにして直面する課題に強く立ち向かっていけるのかを...。「津波」は私にとっては、そのような実践のひとつでした。

被災した人びとは、皆さまにお会いしたことはありませんが、IMADR アジア委員会を通して、彼/彼女らは皆さまへの感謝の気持ちを表わしています。いつか、皆さまがスリランカを訪れ、長期的な生活再建のための支援を受けた被災者に会うことができると願っています。

「気にかける」という活動から、現在では、人びとの自立心を高めたり本来の力を取り戻したりするための活動を、さまざまな地域で行なっています。この活動は、私たちにとっても困難なものです。被災した人びとは、折に触れて給付金や支援提供者からの配給に依存的になってしまうことがあるからです。私たちは、大規模な支援機関が救援・復興活動という名のもとに、不健全な状況を引き起こしていることを経験しました。私たちが生活再建のためにコミュニティに関わるとき、しっかり保たなくてはならなかったのは「大きく、浪費的」ではなく「小さく、効果的」であり続けるということでした。

生活協同組合の組織化や、女性たちの生活再建活動についての情報を、これからも皆さまと共有できること楽しみにしております。さらには、紛争によって被害を受けた東部地域の何人かの学生のために、長期的な教育支援プログラムを開始しています。もし可能であれば、数人の子どもたちの「家族」となって、卒業するまで養子として支えてくださる方を探せればとも思っています。政府による救援は、子どもたちの状況に十分に対応できておらず、幼い彼/彼女らはまだ支援を必要としているのです。

復興過程において創意工夫した活動を続け、家族や子どもたちが再び微笑むことができることを望んでおります。

心の底から感謝の気持ちを込めて。

2006年2月

反差別国際運動 (IMADR)

理事長 ニマルカ・フェルナンド